

北九州市産業振興未來戦略 関連用語集



令和 6 年 3 月
北九州市産業経済局

【あ】

アーバンスポーツ

ブレイキン、パルクール、3×3、BMX、スケートボードなどの都市型スポーツのこと。音楽やファッションなど若者文化が融合したものとして、従来のスポーツの枠を超えた領域にあり、競技者もスポーツという側面にこだわらず、遊びやカルチャーの延長線上にとらえているという特徴を持つ。

RPA

人間がPCを用いて行っている定型作業を、ロボットを用いて自動化するツールのこと。Robotic Process Automationの略。

IoT

これまでインターネットに接続されてきたパソコンやスマートフォンに加えて、自動車や家電など様々なモノがインターネットにつながる。Internet of Thingsの略。

IT

情報や通信に関する技術の総称。Information Technologyの略。

IPO

企業が自社の株式を証券取引所に新たに上場し、不特定多数の一般投資家が自由に売買できるようにすること。Initial Public Offeringの略。

アジア・グリーン共創ハブ

アジアにおける環境国際ビジネスの拠点化を目指した北九州市の新たな取組の総称。

国内外の様々なステークホルダーとビジネス面での接点を増やす取組により、環境・上

下水分野の企業によるインフラ輸出、スタートアップの海外展開支援、国内外からの投資の呼び込み及び関連企業の市内への集積等を促進する。

新しい資本主義のグランドデザイン 及び実行計画

デジタルや気候変動、経済安全保障などの社会課題の解決を図るとともに、これまで、日本の弱みとされてきた分野に官民の投資を集めていく「成長戦略」と、成長によって原資を稼ぎ出すことで賃金の引き上げなどを目指す「分配戦略」の両面から、経済の好循環を生み出す「新しい資本主義」の実現に向けた、政府の基本的考え方と具体策のこと。

アテンション

注意や関心を向けること。

アントレプレナーシップ教育

起業家に必要とされる精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）や資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を育む教育のこと。将来のイノベーションを起こす学生を育成するために重要であり、小学校から高等学校までの学校現場でも取り入れられており、社会問題を解決し、より良い社会を構築するための教育として、注目されている。

e スポーツ

コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉えたもの。Electronic sports の略。年齢や性別・国籍・障害等の壁を超えて、誰もが参加することができ、近年若者を中心に国内外で人気を集めている。e スポーツがもたらす経済効果は、インターネット上やゲームシステム上にとどまらず、スポンサーによる宣伝やグッズ・チケット販売、デバイス販売など多岐に渡っており、市場規模が拡大している。

EV

バッテリー（蓄電池）に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車（電気自動車）のこと。Electric Vehicle の略。

イノベーション

新たな技術や発想を組み合わせることにより、社会に新しい価値を生み出すこと。

インセンティブ

ある目標に向かって誘導するための刺激や誘因、動機となるもの（補助金等）のこと。

インターンシップ

キャリア形成支援として、学生が関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行う活動等のこと。実施内容により、オープン・カンパニー、キャリア教育、汎用的能力・専門活用型インターンシップ、高度専門型インターンシップに分類される。

インバウンド

海外から日本を訪れる旅行のこと。

AI

人間のような知的な情報処理を実現するソフトウェア（人工知能）のこと。自律性・意味性・適応性などの特徴を持つプログラムにより、言語の理解や推論、問題解決などの知的行動をコンピュータに行わせることが可能となる。Artificial Intelligence の略。

エコタウン

資源循環型社会の構築を目指し、地域の産業蓄積を活かした「環境産業の育成」と、「廃棄物の発生抑制・リサイクル」の推進により、地方自治体が主体となり、産学官と連携して先進的な環境調和型まちづくりを目指す取組のこと。北九州エコタウンでは、「ものづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かし、「環境保全政策」と「産業復興」を統合した独自の地域政策を推進している。

M&A

2つ以上の会社が一つになったり（合併）、ある会社が他の会社を買ったり（買収）することで、お互いの経営資源や強みを活用して相互補完を行うことにより、シナジー（相乗効果）を生み出し企業価値を高めること。市場シェアを拡大したり、新しい事業分野への進出等が可能となるため、企業の成長戦略や事業承継の選択肢として注目されている。Mergers and Acquisitions の略。

LCC

無料サービスの廃止や有料化、機内設備を簡素にするなど、効率的な経営により正規運賃自体を低価格にした格安航空会社のこと。Low Cost Carrier の略。

【か】

カーボンニュートラル

人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と、(吸収作用の保全及び強化により)吸収される温室効果ガスの吸収量との均衡を保つこと。

開業率

一定期間に新規に開業した事業所の数が同期間の総事業所数全体に占める割合のこと。

北九州学術研究都市

2001年4月に「アジアに開かれた学術研究都市」として、「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指して、北九州市若松区にオープンした研究開発・産学連携拠点のこと。理工系の国公立大学や研究機関、先進企業が同じキャンパスに集まり、先進的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開している。

北九州空港の滑走路3,000m化

北九州空港の滑走路を現行の2,500mから3,000mに延長する計画のことで、令和9年8月31日の供用開始を目指し整備が進められている。滑走路の延長により大型貨物機の長距離運航が可能となり、従前からの九州で唯一24時間利用可能な利点と併せ、北九州市の物流拠点化への貢献が期待されている。

北九州グリーンインパクト

環境と経済の好循環によるグリーン成長を先導する世界のリーディング都市を目指し、風力発電、水素などの供給・利活用拠点化、社会課題に対応した新たなリサイクル事業の創出など、グリーン産業の更なる発展を図る

とともに、再エネ電力や様々な環境価値の企業への提供による国際競争力の強化や、環境分野で新たな挑戦を目指す企業の集積を図ることを目的とした北九州市の取組のこと。

北九州GX推進コンソーシアム

企業、学術機関、行政、金融機関が連携し、最先端の研究開発の社会実装、GX関連産業の集積、GX人材の育成、地域企業のGX支援などの取組を通じて、カーボンニュートラルの実現と地域産業のグリーン成長を目指す、北九州市のGXを推進するものとして2023年12月に創設した組織のこと。

北九州市基本構想・基本計画

今後の北九州市の目指す都市像や重点戦略（「稼げるまち」「彩りあるまち」「安らぐまち」の実現）を掲げた基本構想、及びその実現に向けた主要な政策を体系的に掲げた、2040年を目標年次とする基本計画のこと。

キャリア

経歴、経験、関連した職務の連鎖等、時間的持続性ないしは継続性を持った概念のこと。

キラーコンテンツ

ある特定の分野において強力な集客力を持つ魅力的な製品、サービス、著作物などのこと。キラーコンテンツの有無は、その分野での普及や差別化、競争に対する優位性の確保などに大きく影響するため、企業等のマーケティングやブランド構築などの面で重要視されている。

クラウド

従来、利用者が手元のコンピュータで利用していたデータやソフトウェアを、ネットワーク経由での利用を可能とするサービスのこと。

グリーンアジア国際戦略総合特区

先駆的取組の実現可能性が高い区域に対し、予算や人員等の政策資源の集中や税制上の支援、規制緩和等を行う国の「総合特区」の一つで、北九州市と福岡県、福岡市の共同申請により認定を受けた特区のこと。北九州市では、この制度を活用し、「環境」「アジア」をキーワードに各種事業に取り組み、国内外の投資を呼び込み、雇用を創出し、地域経済の活性化を目指している。

グリーンエネルギー

二酸化炭素や窒素酸化物などの有害物質を排出しない、あるいは排出が少ないエネルギー源のこと。具体的には、水力発電、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、地熱発電などの再生可能エネルギーなどを指す。

グリーンスチール

電炉への転換や使用するコークスを減少させる手法などにより、製造時のCO₂排出量を従来の鉄鋼より大幅に削減した鉄鋼のこと。国内製造業において、CO₂排出量が3分の1と大きな割合を占める鉄鋼業において、脱炭素化は重要な課題であり、大手鉄鋼メーカーは技術開発に取り組み、さまざまな形でグリーンスチールの提供を始めている。

グローバル

地球全体や世界中のこと。

KPI

目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標。

Key Performance Indicatorの略。

国家戦略特区

「世界で一番ビジネスをしやすい環境」を作ることを目的に、地域や分野を限定することで、大胆な規制・制度の緩和や税制面の優遇を行う国の規制改革制度のこと。

雇用者報酬

現金給与や現物給与のほか、健康保険や厚生年金など雇用する側が負担する社会保険料など、生産活動から発生した付加価値の雇用者への分配額のこと。

コンテンツ産業

映像（映画、アニメ、TV番組）、音楽、演劇、文芸、写真、漫画、アニメーション、コンピューターゲーム等の制作・流通を担う産業のこと。世界のコンテンツ市場が急速に拡大する中、日本のアニメやゲームなどのコンテンツは、国際的に高く評価されており、海外展開を通じた成長が見込まれる有望な産業として注目されている。

【さ】

サーキュラーエコノミー

従来の3R（Reduce、Reuse、Recycle）の取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を目指す循環経済のこと。

再生可能エネルギー

自然界に存在するエネルギーを利用することで、枯渇することなく持続的に使えるエネルギーのこと。再生可能エネルギーには、「太陽光」「風力」「水力」「地熱」「バイオマス」などがあり、温室効果ガスを排出しないクリーンなエネルギーとして、環境問題の解決への貢献が期待されている。

サブカルチャー

正統的・支配的な文化に対し、若者など、その社会内で価値基準が異なる集団に担われる文化のこと。具体的には、漫画、アニメ、映画、ゲーム、キャラクターなどを指す。

サブスクリプション

商品やサービスを所有・購入するのではなく、一定期間利用できる権利に対して料金を支払うビジネスモデルのこと。事業者には、継続的に売上が得られ、将来の利益が試算可能となるなどのメリットがある一方、利用者にも初期費用が抑えられ、利用を開始しやすいなどのメリットがあり、近年、新たなビジネスモデルとして普及が進んでいる。

サプライチェーン

資材の調達から最終消費者に届けるまでの資材や部品の調達・生産・販売・物流といった業務の流れを、1つの大きな供給の鎖（チェーン）としてとらえたもの。

GX

化石エネルギーを中心とした現在の産業構造・社会構造を、クリーンエネルギー中心へ転換する取組のこと。Green Transformationの略。日本政府は、GXを通じて脱炭素、エネ

ルギー安定供給、経済成長の3つを同時に実現させることを目指しており、重点分野における今後10年間で150兆円規模の官民の投資戦略を策定し、企業のGX投資を促している。

シェアリングファクトリー

稼働率が低い、もしくは遊休となっている設備や機器を企業間で貸し借りすること。

次世代自動車

ハイブリッド車や電気自動車、燃料電池車などの環境負荷の低い自動車、また自動運転技術など先端技術を活用した自動車のこと。

市内総生産

一定期間内（通常1年間）に市内経済部門の生産活動によって、新たに生み出された価値（付加価値）の評価額のこと。その都市の経済活動の大きさを表す指標となる。

地元就職率

特定の地域における新卒者のうち、当該地域の事業所等に就職した人の割合のこと。

首都直下地震

東京圏及びその周辺の地域における地殻の境界又はその内部を震源とする大規模な地震のこと。

スタートアップ

先進的なアイデア・技術を強みに、新しいビジネスを創り出し、短期間で急成長を遂げる企業のこと。

スタートアップイグジット

スタートアップ企業の創業者や投資家が、自社の株式の公開や企業の売却などの手法により、利益を得ること。

スパイラル

物事が連続的に同じ方向に進むこと。

生産年齢人口

年齢別人口のうち労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口のこと。

生成AI

データのパターンや関係を学習し、新しいコンテンツを生成することを目的としたAI（人間のような知的な情報処理を実現するソフトウェア）のこと。従来のAIが決められた行為の自動化が目的であるのに対し、生成AIは、自ら学習を重ね、学習したデータを元に、自動的に文章や画像、音声などの生成を可能とする。

製造品出荷額

製造業において、1年間その事業所の所有する原材料によって製造されたものを、当該事業所から出荷した場合の工業出荷額のこと。

【た】

第三次産業

第一次産業や第二次産業に分類されない産業。具体的には、小売業やサービス業、金融業、情報通信業、不動産業、医療・福祉業、教育・学習支援業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、公務などのこと。

ダイバーシティ経営

多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営のこと。

ダッシュボード

さまざまなデータや情報について、直感的に内容を理解できるように、ひとまとめにして表示させたもののこと。北九州市産業振興未来戦略では、戦略の進捗を検証するため、12項目の検証指標群をダッシュボードとして設定している。

地域中核企業

北九州市において定義する地域の中核となる企業概念。自社の成長・変革に対し高い意欲を持ち、製品やサービスの高付加価値化で得た利益により、良質な雇用を創出し、地域経済を牽引していくことが期待される企業を指す。

地域未来投資促進法

地域の成長発展の基盤強化を目的に、都道府県の基本計画に沿った、地域経済を牽引する事業者の取組に対し「税制」「融資」「国補助の優遇」「規制特例(農地の産業用地への転用等)」等の支援措置を可能とする法律のこと。

地価上昇率

土地の価格が前年と比べてどれだけ上がったかを示す指標のこと。

地政学リスク

特定地域が抱える政治的、軍事的、社会的な緊張の高まりが、地理的な位置関係によって、その地域や関連地域の経済、世界経済全体の先行きを不透明にしたり、特定の商品の価格を変動させたりするリスクのこと。

ツーリズム

観光事業。旅行業。また、観光旅行のこと。

DE&I

多様性・公平性・包摂性を取り入れて公平な機会のもと、多様な人材が互いに尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念のこと。従来のD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）に、一人ひとりの違いや状況に配慮して、公平な環境を整備するという「Equity」の考えを加えたもので、D&Iよりも一歩進んだ概念として近年広がりつつある。

DX

企業が顧客や市場の劇的な変化に対応しつつ、組織や文化、従業員の変革を牽引しながら、クラウドやビッグデータ、ソーシャル技術等を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通して変革を図ることで新たな価値を創出し、競争上の優位性を確立すること。Digital Transformationの略。

データセンター

インターネット用のサーバやデータ通信、固定・携帯・IP電話などの装置を設置・運用することに特化した建物の総称。

デジタルテクノロジー

デジタル技術を用いた製品やサービスのこと。

テック系人材

システムエンジニアやプログラマーなど、IT（情報技術）技術者の総称。

特定重要物資

国民生活や経済活動に不可欠で、当該物資又はその原料等の供給を外部に過度に依存しており、供給網の強化が特に必要であるものとして、国が指定する半導体や蓄電池、天然ガスなどの物資のこと。国は、民間事業者が行う、特定重要物資に係る生産基盤の整備や生産技術の開発等の取組に対し、財政支援措置を設けている。

【な】

南海トラフ地震

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域（南海トラフ）及びその周辺の地域における地殻の境界を震源とする大規模な地震のこと。

西のゴールデンルート

大阪よりも西に位置する14の自治体（北九州市、神戸市、姫路市、岡山県、広島県、下関市、高松市、福岡市、武雄市、別府市、熊本市、長崎市、宮崎市、鹿児島市）が共同で形成を目指している陸・海・空で繋がる観光周遊ルートのこと。

2024年問題

2024年4月から働き方改革関連法施行による時間外労働の上限規制等の適用に伴い、長時間労働の常態化が以前から問題とされていた建設業や物流業において、労働力の減少により輸送能力の低下、納期の遅れ、コストの増加などの影響が懸念されていること。

【は】

廃業率

一定期間に廃業した事業所の数が同期間の総事業所数全体に占める割合のこと。

バックアップ首都

災害リスクに強い基盤、充実したインフラなどのポテンシャルを活かし、首都圏に集中する本社やデータセンター等を誘致し、日本全体のバックアップシティとしての役割を担うことで、さらに企業や人を呼び込み都市の成長を図る、北九州市の構想のこと。

BCP

企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画（事業継続計画）のこと。

PDCA サイクル

「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」という一連のプロセスを繰り返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法のこと。

ビッグデータ

デジタル化の更なる進展やネットワークの高度化、またスマートフォンやセンサー等IoT関連機器の小型化・低コスト化によるIoTの進展により、スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。

フェムテック

女性特有の健康課題をテクノロジーで解決する製品・サービス、その開発などの総称のこと。Female（女性）とTechnology（テクノロジー）を組み合わせた造語。

付加価値

企業等の生産活動によって新たに生み出された価値のこと。

物流インフラ

物の移動を実現する、トラック・鉄道・飛行機・船等の輸送手段や、これらの運用を可能にする道路や港湾、線路、空港等の施設のこと。

プラットフォーム

行政と民間企業、大学等が協力しながら、それぞれのノウハウや技術を活用して、特定の課題の解決やサービスの質アップ、業務効率化などのプロジェクトに取り組んでいく上で土台となるチームや体制のこと。

ブランディング

「他と区別できるもの」を作り、それに対する信頼や共感によって他とは違う価値を生み出すこと。

プログラミングスキル

コンピュータに指示を出すためのプログラムを書くスキルのこと。

プロモーション

消費者に商品やサービスを認知させるコミュニケーション全般のこと。

バクトル

物事や考え方の向いている方向のこと。

ヘルステック

最新技術を活用した医療や健康関連の製品・サービス、その開発などの総称のこと。Health(健康)とTechnology(テクノロジー)を組み合わせた造語。

ベンチャーキャピタル

未上場の新興企業(ベンチャー企業)に出資して株式を取得し、将来的にその企業が株式を公開(上場)した際に株式を売却し、大きな値上がり益の獲得を目指す投資会社や投資ファンドのこと。

ポテンシャル

潜在的な能力や可能性など、まだ発揮できていない秘められた力のこと。都市や地域が持つポテンシャルとしては、土地や水、鉱物資源などの自然資源や、地理的な立地や環境条件が持つ可能性や利点、技術やイノベーションを起こす能力などがある。

【ま】

マーケット

製品やサービスを購入しようとしている、または今後購入する見込みのある個人や組織の集合のこと。

マーケットイン

市場のニーズや顧客の意見をもとに製品開発を行うこと。

MICE

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。

マッチング

二つ以上の要素が適切に組み合わせられること。相互に関連性や適合性がある要素同士が結びつくことで、最適な組み合わせが生まれる。例えば、求職者と企業のマッチングでは、求職者のスキルや希望条件と企業の求める人材や募集条件が適合することで、双方にとって最適な雇用関係が成立する。

ミスマッチ

二つのものの組み合わせが釣り合わないことや、組み合わせがうまくいかないこと。例えば、企業と求職者の関係においては、市場の変化などにより求人需要は低いが、求職者数は多くなっている状況や、企業が求めるスキルや年齢、条件などが求職者の求めるものと一致しない状況など、互いのニーズにギャップがある場合にミスマッチが生じる。

未来産業

北九州市において、地域経済の未来の成長を牽引していくことが期待される新たな産業分野等のこと。具体的には、今後、世界的に市場の成長が見込まれている半導体や次世代自動車、宇宙など、北九州市域に関連企業の集積や関連する研究を実施する大学等が存在する産業分野を指す。

メカニズム

ものごとの仕組みのこと。

メガリージョン

大都市とその周辺都市で構成される新たな経済活動単位のこと。貿易、交通、イノベーションの一大圏域であり、世界からヒト、モノ、カネ、企業、情報が集まる領域を指す。北九州市では、福岡市や下関市等をはじめとした北部九州圏の都市との連携により、人材の集積、観光誘客、相互の産業強化を図り、エリア全体の繁栄を目指している。

モーダルシフト

トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること。

【や】

U・Iターン

地方から都市部へ移住したものが再び地方の生まれ故郷に戻る「Uターン」と出身地とは別の地方に移住する「Iターン」のこと。

有効求人倍率

求職者1人あたりにどれくらいの仕事があるかを表す指標のこと。例えば、有効求人倍率が1以上の値を示す場合は、求職者より求

人数が多く、企業が人材を確保することが難しい状況を表す。こうした求職者と求人数の需給のバランスは、企業規模や業種、地域によって異なっており、バランスが取れていない状況を雇用のミスマッチと呼ぶ。

【ら】

ラボ

新しい技術やアイデアを試す実験室や研究室などの場所のこと。laboratoryの略。

リーディングプロジェクト

事業全体を進める上で核となり、先導的な役割を果たすプロジェクトのこと。

リスクリング

新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する、または、させること。

リソース

資源や物資のこと。

レジリエント

様々な環境・状況に適応すること。災害や不況、危機などの逆境を柔軟に受け止め、跳ね返す力のことを指し、今後の社会において、都市が持続的に成長していく上で不可欠な能力とされている。

労働生産性

従業者一人あたりの付加価値額のこと、一人の従業者がどれくらいの利益を生み出したかを表す指標。労働生産性を向上させることは、少人数での利益創出、ワークライフバランスの実現、企業競争力の向上、新たな投資等につながるため、近年では人手不足や働き方改革の推進などの社会背景から、多くの企業で重要視されている。

ロボット・DX 推進センター

2022年4月に北九州学術研究都市内に設立した、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援する北九州市の機関のこと。導入支援や操作体験、人材育成等の取組を通して、地域企業を総合的・一元的に伴走支援するとともに、集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たしている。

【わ】

ワーキンググループ

特定の問題の調査や計画の推進のため設けられた部会やチーム等のこと。



北九州市産業振興未来戦略 関連用語集

＜発行＞北九州市産業経済局産業政策課

住所：北九州市小倉北区城内1番1号

電話：093-582-2299 FAX：093-591-2566